# 住宅、自動車の動向に陰りが

## 銅の輸出　地金、スクラップとも大幅減

橋本金属・アルミ　橋本健一郎氏リポート①

■概況

三月前半は、イエレン米連邦準備理事会（FRB）議長の発言を受け、緩和的な米金融政策が長い期間に渡って続くとの観測や、ロシアのプーチン大統領がウクライナ南部のクリミア半島へ軍事介入したが軍事演習中の部隊に駐留地への帰還を指示したと伝えたことなどのプラス材料もあったが、ADP全米雇用リポートで、非農業部門の雇用者数が市場予想を下回ったことや、二月の米サプライマネジメント協会（ISM）非製造業景況感指数は四年ぶりの水準に低下したこと、中国の太陽光関連メーカーの超日太陽が中国債券市場で初の債務不履行が発生、さらに二月の中国貿易統計で、二月の輸出が一八・一％減と予測の六・八％増を大きく下回ったことなど、中国の景気減速懸念が改めて浮き彫りなったことを受けて、LME銅相場は暴落、六、四九〇ドル（セツル）と前月最終価格より六〇五ドル下げての前半締めとなった。

後半はウクライナ南部のクリミア自治共和国が十六日に実施した住民投票でロシアへの編入支持が圧倒的多数を占め、住民投票の実施そのものに反発していた欧米はロシアに対し追加の経済制裁に踏み切るとの警戒感や、LME在庫が約七％急増するなどマイナス材料もあったが、ウクライナ南部クリミア自治共和国の住民投票を受けた米欧のロシアに対する経済制裁が市場の予想に沿った内容だったことや、二月の米鉱工業生産指数が市場予想を上回る伸びを示したこと、プーチン大統領がウクライナ分割は望まないと発言したこと、中国の李首相が景気刺激策を講じる可能性に言及したことから上昇、四月一日現在、前半締めから一四六ドル上昇の六、六三六ドル、銅建値は七三万円のスタートとなった。

■前月の経済指標

◆月間のドル／円レート（TTM）

一〇〇・九六→一〇三・一七（円）

◆自動車生産台数

日本自動車工業会によると、自動車生産台数は前年比七・一％増の八〇万六、二一一台であった。

◆自動車販売台数

日本自動車販売協会連合会によると、自動車販売台数（軽除く）は前年比一七・八％増の四八万一、〇三九台。

◆新設住宅着工戸数

国土交通省統計によると、新設住宅着工戸数は前年比一％増の六万九、六八九戸であった。

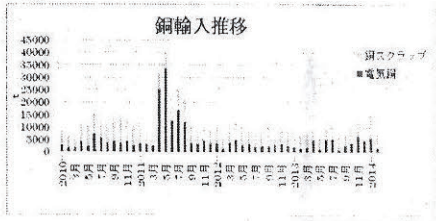
◆貿易関連指標

財務省貿易統計によると、輸出は前年比で電気銅が三六・九％減、三万五、五一八t、スクラップが二七・八％減の一万七、三二六t。

輸入は電気銅が前年比一・五％減の一、四〇〇t、スクラップ三五％増の七、三三七t。

| 輸入 | 12月 | 1月 | 2月 |
|---|---|---|---|
| 電気銅 | 4817 t | 5918 t | 1400 t |
| 前年比 | +85.3% | +178.8% | -1.5% |
| スクラップ | 8091 t | 9413 t | 7337 t |
| 前年比 | +51% | +76.3% | +35% |

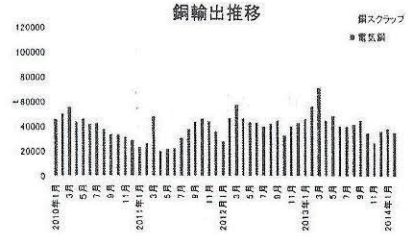
輸入推移




出典　財務省　貿易統計

| 輸出 | 12月 | 1月 | 2月 |
|---|---|---|---|
| 電気銅 | 3万6330 t | 3万8600 t | 3万5518 t |
| 前年比 | −16.3% | −16.7% | −36.9% |
| スクラップ | 2万2414 t | 1万2838 t | 17326 t |
| 前年比 | −24.8% | −45.3% | −27.8% |

輸出推移




■前月の国内指標

日本伸銅協会発表の伸銅品生産推移（速報）によれば、前年比七・三％増の六万五、五五〇t。

日本電線工業会発表の出荷速報（推定）は、前年比八・八％増の六万〇、八〇〇tであった。

（六面へ続く）

（四面より続く）

■見通し

三月は消費増税前の駆け込み需要と前月からの中国の理財商品問題およびウクライナ情勢の緊迫化に一喜一憂した月となった。

自動車生産は前年比七・一％増の八〇万六、二一一t。六カ月連続プラス。乗用車七四万一、三七六台で五万一、七四四台・七・五％の増加となり、六カ月連続のプラス。トラック一〇万九、九九七台で五、〇八五台・四・八％の増加となり、八カ月連続のプラス。バス一万二、〇二四台で三五七台・三・一％の増加となり、三カ月連続のプラス。国内需要は五六万五、一七〇台で、前年同月比一八・四％の増加。輸出は前年同月比六・〇％の減少。（実績）

自動車販売の方は七カ月連続前年超えの四八万一、〇三九台、前年比一七・八％増。うち乗用車一七・一％増、貨物二三・六％増、バス一四・三％増。

新設住宅着工戸数は先月に続き一八カ月連続増加、前年比一％増（季節調整済み前月比六・九％減）の九一・九万戸。

リーマンショックを受けた大幅な下落（平成二十一年度）以降、緩やかな持ち直しの傾向が続く中、このところ、消費マインドの改善等もあって、堅調に推移してきたが、足元では、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動もあって、増勢が鈍化している。

今後の先行きについては、雇用・所得環境の推移、東日本大震災からの復興状況、建設労働者の需給状況、住宅ローン金利の動向等を引き続き慎重に見極める必要がある。

（持家）

前年同月比では一八カ月ぶりの減少（前年同月比〇・四％減、季節調整値の前月比七・八％減）。

（貸家）

前年同月比では一二カ月連続の増加（前年同月比二四・七％増、季節調整値の前月比七・四％増）。

（分譲住宅）

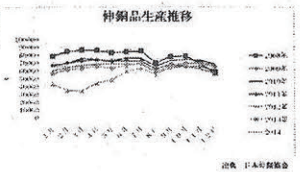
前年同月比では三カ月ぶりの減少（前年同月比二〇・九％減、季節調整値の前月比二〇・九％減）。

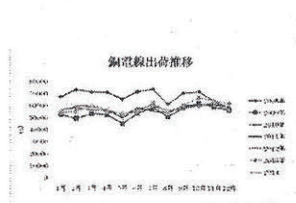
（分譲マンション）

前年同月比では二カ月ぶりの減少（前年同月比三三・五％減）。

伸銅品生産量は前年比七・三％増の六万五、五五〇tと八カ月連続前年を上回る。内需〇・八％増と六カ月連続プラス、輸出は円安を追い風に一一カ月連続前年プラスの五・五％増。銅条一万九、七一〇tで一一・一％増、黄銅棒一万六、三一七tで九・八％増。

銅電線出荷量は、前年比八・八％増の六万〇、八〇〇t。うち国内五・五％増、輸出が三〇〇％増。通信五・九％減、電力五・五％減、電気機械七・五％増、自動車四・五％増、建設・電販四・四％増、その他内需二四・七％増。




輸出に関しては、電気銅輸出が前年比三六・九％減の三万五、五一八t。銅スクラップは二七・八％減の一万七、三二六t。ドル円は一〇二円台まで進んだが、発生難、消費増税前の好調な需要を背景に国内需要家が原料手当てを急いだため電気銅、スクラップ輸出は減少した。

輸入は電気銅が一・五％減の一、四〇〇t。スクラップは三五％増の七、三三七t。円安の進行による割高から電気銅は減少したが、割安感のあるスクラップは輸入が増加したとの見解。

【銅需給に関して】

住宅関連は新設住宅着工数が前年比一％増の一八カ月連続増加、持家〇・四％減、貸家二四・七％増、分譲マンション二一％減と大幅減少。消費税前の駆け込み需要も終了したのか上昇幅が先月の一八％から一％に急減。来月の動向に注視したい。

自動車は生産が六カ月連続上昇の七・一％増。ただし三月の国内販売台数が前年比一七・八％増と大幅増。前月に続き増税前の駆け込み需要で販売は大幅増だったが、生産は増加幅が先月の約半分。消費税前のかけ込み需要の反動からから住宅、自動車需要の二本柱が減少傾向にある。

為替が前月から引き続き一〇一～一〇二円近辺と円高が継続している事に加え、銅建値自体が月初の七七万円から七三万円に暴落している事から、四月から発生が期待されていたスクラップも塩漬け状態になっている。

また四月の消費増税への買い控えによる需要減から、需要家の積極的な買いは手控えられるため需給は緩みがち。

【銅価格に関して】

今月も中国の動向およびウクライナ情勢に左右される。

中国の動向に関しては三月の中国HSBC製造業PMI速報値は四八・一に低下、八カ月ぶりの低水準になったことを受けて、中国の李首相が経済成長は合理的なペースを維持するべきと発言したことから景気刺激策に対する期待が高まり、センチメントも改善したと判断。

ウクライナ情勢に関してはドイツ首相府の発表によれば、ロシアのプーチン大統領が三十一日に行われたドイツのメルケル首相との電話会談で、ウクライナとの国境地帯に展開しているロシア軍の一部撤収を命じたことを明らかにしたことから四月中には沈静化に向かうと判断。

それらを踏まえた銅価格、上値は、中国が景気刺激策対をだし、ロシアがウクライナからの撤退をした場合、三月高値のもう一段高の七、二〇〇ドルを予測。いずれかの場合は七、一〇〇ドル。

下値は上記の景気対策やウクライナ情勢の緊迫化が続いた場合、三月後半もう一段安値の六、四〇〇ドルを予測。

為替TTMは上記景気対策やロシア軍の撤退が行われた場合、下値はドルユーロ高・円安から三月安値の一〇三円台。上値は景気対策や撤退行われなかった場合、失望感から一〇一円まで円高が進むとの予測。

銅建値に関しては六九〇～七八〇円程度と予測している。